

ZOCALO 2017 10・11

ZOCALO=ソカロはメキシコの都市の広場を意味するスペイン語。埼玉県立近代美術館はアートを通して交流する市民の広場をめざしています。

35th ANNIVERSARY / MOMAS
開館35周年

埼玉県立近代美術館 35周年記念号
総力特集！【学芸員 開放計画】

わたしをひらく
MOMAS
Kita-Urawa

ディエゴ・リベラの時代 —メキシコの夢とともに—

2017年10月21日(土)～12月10日(日)

MEXICO GOBIERNO DE LA REPUBLICA INBA

メキシコは夢の大地である。さらに私は言いたい、それは異った現実、異った現実からつくられた大地だ、と。本質的な情熱が他の国より明瞭に見え、人間の古い歴史の痕跡が一層強く感じられる最高に光り輝く国、野生の国。(註)

メキシコの先住民文化に精通していたフランスの小説家ル・クレジオは、メキシコの魅力について、こう熱く語っています。マヤ、アステカ文明などの歴史を持つメキシコは、スペイン人による統治が始まってからも、西洋とは異質な社会的、文化的風土が醸成され、それが固有の芸術を生み出す揺りかごになってきたと言えるでしょう。



1

メキシコの近代美術は革命後の1920-30年代に独特の展開を遂げ、世界中から注目を集めました。その歴史を語る上で欠かせない画家が、今回の展覧会の主役となるディエゴ・リベラ(1886-1957)です。メキシコで国民的な画家として愛されてきたリベラは、この国の紙幣にも登場し、日本のファンも多いフリーダ・カーロの伴侶としても知られています。

画才に恵まれたリベラは10歳の頃から美術学校に通い、1907年にはヨーロッパに留学し、キュビズムなどの最先端の画風を試み、ピカソとも交流しました。しかし1921年に帰国すると、革命以降の社会や先住民の伝統に眼を向け、その思想や歴史を公共空間に描く「メキシコ壁画運動」に積極的に携わります。西洋のモダニズムを吸収しつつ、古典主義的な表現、プリミティブな要素、壁画に適した空間構成などを巧みに融合し、独自の画風を築いたリベラは、1930年代に入るとアメリカでも注文を受けて壁画を制作しています。

壁画だけではなく、メキシコ固有の題材を採り入れた風俗画や肖像画などにおいても、リベラは優れた作品を数多く残しています。人物描写に秀でていたリベラには、モデルの風貌や容姿を的確かつ魅力的に捉える技量がありました。また画面の細部に寓意を込めたり、擬人化したモチーフを描いたりしながら、物語を感じさせる絵画をしばしば手掛けています。例えば《聖アントニウスの誘惑》はもともと宗教的な画題ですが、メキシコ南部のオアハカで開かれる、大根を使った人形祭りからヒントを得て描かれています。そこに、重層的で広がりのある意味を読み取ることができるでしょう。



2

当館の開館35周年を記念して開催されるこの展覧会は、メキシコ国立芸術院(INBA)との共同企画によって実現しました。初期から晩年にいたるリベラの画業を、油彩画、素描、版画など、厳選した約30点の作品でたどりまします。また、リベラの師でありメキシコ近代絵画を拓いたペラスコヤ、同時代のメキシコの様々な美術動向も併せて紹介します。さらに、リベラとの接点を示す日本人画家たちに関する資料も取り上げます。リベラとカーロのアトリエ兼住居を描いた北川民次の作品や、レオナルド・フジタのメキシコ滞在中の新たな資料などは必見です。(L.H.)

註：ル・クレジオ著(望月芳郎訳)『メキシコの夢』新潮社、1991年、229頁



3

1. ディエゴ・リベラ《裸婦とひまわり》1946年/ベラクルス州立美術館蔵/Museo de Arte del Estado de Veracruz
 2. ディエゴ・リベラ《銃を持つ水兵(朝食をとる船乗り)》1914年/ディエゴ・リベラ生家美術館蔵/Museo Casa Diego Rivera, Marte R. Gómez Collection, INBA, Guanajuato
 3. ディエゴ・リベラ《聖アントニウスの誘惑》1947年/メキシコ国立美術館蔵/Museo Nacional de Arte, INBA, Mexico City
- © 2017 Banco de México Diego Rivera Frida Kahlo Museums Trust, Mexico, D.F. / Reproduction authorized by INSTITUTO NACIONAL DE BELLAS ARTES Y LITERATURA 2017.

アーティスト・プロジェクト #2.02 北野 謙：光を集める

2017年10月7日(土)～12月10日(日)

「アーティスト・プロジェクト #2.0」(以下「A.P.#2.0」)は、昨年度からスタートした新しいプログラムです。「A.P.#2.0」は、MOMAS コレクションの中で展開していた「アーティスト・プロジェクト」(以下「初代 A.P.」)と区別する意図があります。「初代 A.P.」は、収蔵作品への理解を深めてもらうために、当館が作品を収蔵している作家に、表現が成立する過程を含めて展示を実現してもらうプログラムで、単なる小規模な個展とは異なる意欲的なコンセプトを持たせた企画です。これに対して、MOMAS コレクションの枠から飛び出した「A.P.#2.0」では、収蔵作家という制約にとらわれず、活躍中のアーティストを選出します。展示スペースも会期もフレキシブルで、従来の展覧会や展示の枠組みを越境する試みも可能です。そんな「A.P.#2.0」の出現は、「初代 A.P.」の歴史を、「A.P.#1.0」として位置づけることを要請してきます。そこで、「初代 A.P.」の歴史を「A.P.#1.0」として振り返ると、実績のある錚々たる顔ぶれになりました。

初代アーティスト・プロジェクトの歴史

- A.P.#1.01 橋本真之(2003年度)
- A.P.#1.02 佐藤時啓(2004年度)
- A.P.#1.03 関根伸夫(2005年度)
- A.P.#1.04 襲嘯(2006年度)
- A.P.#1.05 重村三雄(2007年度)
- A.P.#1.06 大浦一志(2011年度)
- A.P.#1.07 ゴトウ・シュウ(2012年度)
- A.P.#1.08 島州一(2015年度)



北野 謙《光を集めるプロジェクト：埼玉県立近代美術館屋上から(西)2015 冬至-2016 夏至》2017年/作家蔵 ©Ken Kitano, courtesy MEM



北野 謙《光を集めるプロジェクト：埼玉県立近代美術館屋上から(東)2015 冬至-2016 夏至》2017年/作家蔵 ©Ken Kitano, courtesy MEM

このような歴史をふまえて、2016年度に「A.P.#2.0」がスタートし、齋藤春佳さんをお招きして「A.P.#2.01」が開催されました。そして、今年度の「A.P.#2.02」では、写真家の北野謙さんをお迎えして、「光を集める」と題する展示を開催します。中心となるのは、北野さんが取り組んでいる「光を集めるプロジェクト」シリーズです。これは、屋内・屋外に約半年間カメラを設置し、夏至と冬至を目安に、半年間の太陽の軌跡を、長時間露光で一枚の写真におさめるシリーズです。すでに数十箇所にカメラを設置しての撮影が実施され、当館の屋上にも、2015年冬至から2016年夏至まで、2台のカメラが設置されました。そのカメラで撮影された、半年分の太陽の軌跡が、ここで紹介している2点の写真です。太陽の軌跡がつながっているところもあれば、太陽が出なかった時間を示すように、軌跡が断続的のところや、光が少ないところもあります。この写真を見ていると、光と時間の織りなす黙示録的な世界、人間の存在が相対化される世界が表出しているような、深い感慨が得られます。さらに、北野さんが現在取り組んでいる「生まれたて」の新作シリーズと、1990年代の〈溶浴する都市〉シリーズからのセレクションも、あわせて出品されます(「溶浴」は、瑛九とともにデモクラート美術家協会で活躍した写真評論家の福島辰夫さんの命名)。写真を、近代を、人間を、根源から問い直す3つのシリーズによる充実の展示を、どうぞお見逃しなく。(G.U.)

11月5日、アーティスト・トーク開催!

11月は開館記念月間!!

1982年11月3日、緑豊かな北浦公園の中に誕生した埼玉県立近代美術館。35周年を迎える11月を「開館記念月間」として、記念展である「ディエゴ・リベラの時代」以外にも特別なイベントを実施します。

1. ベストデザインの椅子グランプリ 決勝:10月1日(日)～11月12日(日) 結果発表:11月14日(火・県民の日) 展示:12月10日(日)まで 皆さんの投票によって決勝に進出した8脚の椅子。どれもそれぞれ個性的で座り心地も抜群の精鋭揃いです。決選投票は11月12日(日)まで。当館にいらした方の投票でベストデザインの椅子が決定します。ぜひお気に入りの椅子を応援してください。
2. MOMASポスター・デザイン展 11月3日(金・祝)～12月10日(日) 当館では、35年で160を超える企画展を実施してきました。企画展の「顔」とも言えるポスター、中でも秀逸な作品を一挙に展示! 御覧になった企画展を改めて思い出したり、デザインをお楽しみいただいたり、35年の歩みを一緒に辿っていただければ幸いです。
3. 35周年メッセージ 展示:11月1日(水)～12月10日(日) 館内やtwitterでいただいた当館へのあたたかい(熱い!)メッセージ。エンタランスにて展示させていただきます。「私も〇〇が好きだった!」「こんな思い出もあります」...メッセージをお寄せいただける方は総合受付まで!

11月3日と5日、開館35周年大感謝祭!

4. 開館記念大感謝祭(仮称) 11月3日(金・祝) BIRTHDAY当日は、講堂にて開館記念大感謝祭を実施します。ふらっと来ていただいてもお楽しみいただけるプログラムを実施する予定ですので、ぜひお立ち寄りください。

5. いつでもガイド 11月5日(日) 当館収蔵品を様々なテーマでご紹介する「MOMASコレクション」。(ほぼ)毎日14:00からガイドして下さっている「美術館サポーター」の皆さんに、拡大版でご案内いただきます。なおこの日は「彩の国教育週間」として、MOMASコレクション入場が無料となりますので、ぜひ珠玉の作品に浸ってください。

さらに...11月26日は豪華特別付録の日!

付録. サンデートーク・スペシャル 11月26日(日) 展示中の作品について学芸員が解説するサンデートークもスペシャル版を開催! 通常はMOMASコレクション展示作品を扱いますが、展示室を飛び出すかも...!? 乞うご期待!(S.I.) ※内容は変更になる場合があります。